

## 基本計画書

基本計画										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	大学院の設置									
フリガナ設置者	コクリツガクイフクニシ ユウナンコクリツガクイフク 公立大学法人 周南公立大学									
フリガナ大学の名称	ユウナンコクリツガクイフク 周南公立大学大学院									
大学本部の位置	山口県周南市学園台843-4-2									
大学の目的	周南地域における知の拠点として、公正な社会観と正しい倫理観の確立を基にした「知・徳・体」一体の全人教育を通して総合的かつ専門的な知識、学術を教授研究し、世界的視野と広く豊かな教養を有し、地域に新たな価値を創造する人材を育成するとともに、地域との連携を深め、地域の政策課題の解決や活力豊かなまちづくりの実現に寄与するなどその教育研究成果を広く社会に還元することで、地域社会及び産業の持続的な振興、発展に貢献することを目的とする。									
新設研究科等の目的	情報科学研究科は、情報科学の発展に寄与するとともに、その教授・研究を通じて、学術・社会の諸課題を情報科学技術を用いて解決できる人材を養成することを目的とする。応用情報科学専攻（専門職）は情報科学とその社会的応用にかかる応用情報科学の教授・研究を通じて、組織の諸課題を解決するとともに、その変革及び新たな価値の創出を推進し、社会に貢献できる情報系高度専門職業人の養成を目的とする。									
新設研究科等の概要	新設研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	専門職大学院 14条特例の実施
	情報科学研究科 応用情報科学専攻 （専門職） 計	2 2	15 15	- -	30 30	情報科学修士 （専門職）	工学関係	令和8年4月 第1年次	山口県周南市学園 台843-4-2	
同一設置者内における変更状況 （定員の移行、名称の変更等）	該当なし									
教育課程	新設研究科等の名称	開設する授業科目の総数				修了要件単位数				
	情報科学研究科 応用情報科学専攻 （専門職）	講義	演習	実験・実習	計	40単位				
新設	研究科等の名称	専任教員					助手	専任教員以外の教員 （助手を除く）		
	情報科学研究科 応用情報科学専攻 （専門職）	教授	准教授	講師	助教	計	0人	4人		
既設	該当なし	-	-	-	-	-	-	-		
	計	7人 (7)	2人 (2)	0人 (0)	0人 (0)	9人 (9)	0人 (0)	4人 (4)		
合計		7人 (7)	2人 (2)	0人 (0)	0人 (0)	9人 (9)	0人 (0)	4人 (4)		
職種		専属			その他		計			
事務職員		55 (55)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	72 (72)		
技術職員		0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)		
図書館職員		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	8 (8)		
その他の職員		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
指導補助者		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計		56 (56)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	26 (26)	0 (0)	82 (82)		

大学全体・その他の職員は、図書館専門職員及び守衛を委託先から派遣

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	81,281㎡	0㎡	0㎡	81,281㎡					
	そ の 他	80,325㎡	0㎡	0㎡	80,325㎡					
	合 計	161,606㎡	0㎡	0㎡	161,606㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		24,058㎡ ( 24,058㎡)	0㎡ ( 0㎡)	0㎡ ( 0㎡)	24,058㎡ ( 24,058㎡)					
講義室等・新設研究科等 の専任教員研究室		講義室	実験・実習室	演習室	新設研究科等の 専任教員研究室	大学全体				
		26室	18室	15室	9室					
図 書 ・ 設 備	新設研究科等の名称	図書 〔うち外国書〕	電子図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 標本				
		冊	冊	種	種	点	点			
	情報科学研究科 応用情報科学専攻 (専門職)	0 [0] ( 0 [0] )	1,000 [100] 1,000 [100]	3 [1] 3 [1]	8 [3] 8 [3]	712 (712)	0 ( 0 )			
	計	0 [0] 0 [0]	1,000 [100] 1,000 [100]	3 [1] (3 [1] )	8 [3] 8 [3]	712 (712)	0 ( 0 )			
経 費 積 及 持 の 概 要	経費の 積り の 維 持 方 法	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	共同研究費は大学 全体での経費。 図書購入費につい てはデータベース 整備費(運用コス ト含む)を含む。	
		教員1人当り研究費等		300千円	300千円	—千円	—千円	—千円		
		共同研究費等		20,000千円	20,000千円	—千円	—千円	—千円		
		図書購入費	8,000千円	1,000千円	1,000千円	—千円	—千円	—千円		
	設備購入費	10,035千円	1,000千円	1,000千円	—千円	—千円	—千円			
	学生1人当り 納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次			
		535.8千円	535.8千円	—千円	—千円	—千円				
学生納付金以外の維持方法の概要		周南市からの運営費交付金等								
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 等 の 名 称	周南公立大学								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	収容定員 率	開設 年度	所 在 地	令和6年度より 学生募集停止 (経済学部、福祉 情報学部)
	経済学部	年	人	年次 人	人		倍		山口県周南市学園台 843-4-2	
	現代経済学科	4	-	-	-	学士(経済)	-	昭和46年度		
	ビジネス戦略学科	4	-	-	-	学士(経済)	-	昭和51年度		
	福祉情報学部									
	人間コミュニケーション学科	4	-	-	-	学士(福祉情報)	-	平成15年度		
	経済経営学部									
	経済経営学科	4	160	-	320	学士(経済経営学)	1.11	令和6年度		
	人間健康科学部									
スポーツ健康科学科	4	80	-	160	学士(スポーツ健康 科学)	1.02	令和6年度			
看護学科	4	80	-	160	学士(看護学)	1.01	令和6年度			
福祉学科	4	60	-	120	学士(社会福祉学)	1.00	令和6年度			
情報科学部										
情報科学科	4	100	-	200	学士(情報科学)	1.09	令和6年度			
附属施設の概要										

教 育 課 程 等 の 概 要																
情報科学研究科応用情報科学専攻（専門職）																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹（助手を除く教員）
基盤科目	応用情報科学特論	1前	/	2			○			7	2					オムニバス・共同（一部）・メディア
	専門職としての研究方法とコミュニケーション	1①	/	2			○			1						※演習・メディア
	応用プログラミング演習	1①	/	2				○		1	1					共同・メディア
	技術者倫理特論	1②	/	2			○			4						※演習・オムニバス・共同（一部）・メディア
	統計学応用特論	1②	/	2			○			1						※演習・メディア
	小計（5科目）	-	-	-	10	0	0	-	-	7	2	0	0	0	0	0
専門科目	組織活動の経済・評価特論	1①	/		2		○									兼1 ※演習・メディア
	ソフトウェア工学特論	1②	/		2		○			1						※演習・メディア
	データサイエンス特論	1③	/		2		○			1						※演習・メディア
	UX・UI特論	1③	/		2		○									兼1 ※演習・メディア
	アルゴリズム特論	1③	/		2		○				1					※演習・メディア
	最適化特論	1③	/		2		○			1						※演習・メディア
	情報システムの開発と評価特論	1③	/		2		○			1						※演習・メディア
	金融工学特論	1③	/		2		○			1						※演習・メディア
	データベース特論	1④	/		2		○			1						※演習・メディア
	AI・機械学習特論	1④	/		2		○			1						※演習・メディア
	生成AI活用特論	1④	/		2		○			1						※演習・メディア
	シミュレーション特論	1④	/		2		○			1						※演習・メディア
	アプリケーション開発特論	1④	/		2		○									兼1 ※演習・メディア
	組込みシステム・IoT特論	1④	/		2		○									兼1 ※演習・メディア
小計（14科目）	-	-	-	0	28	0	-	-	7	1	0	0	0	0	兼4	-
展開科目	ビジネスデータサイエンス特演	2①	/		2			○		1						メディア
	システム開発特演	2①	/		2			○		1						メディア
	AI活用特演	2②	/		2			○		1						メディア
	アプリケーション開発特演	2②	/		2			○			1					メディア
	地方創生DX特演	2③	/		2			○		1	1					共同・メディア
	小計（5科目）	-	-	-	0	10	0	-	-	4	2	0	0	0	0	-
課題研究	課題研究1	1前	/	2				○		7	2					メディア
	課題研究2	1後	/	2				○		7	2					メディア
	特定課題研究1	2前	/	4				○		7	2					メディア
	特定課題研究2	2後	/	4				○		7	2					メディア
	小計（4科目）	-	-	-	12	0	0	-	-	7	2	0	0	0	0	-
合計（28科目）		-	-	-	22	38	0	-	-	7	2	0	0	0	兼4	-
学位又は称号	情報科学修士（専門職）			学位又は学科の分野			工学関係									
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等									
情報科学研究科応用情報科学専攻（専門職）の修了要件は、基盤科目10単位、専門科目8単位、展開科目4単位、課題研究12単位を含み、合計40単位以上を修得すること。（履修科目の登録の上限：16単位（一学期））							1学年の学期区分				2期（4クォーター）					
							1学期の授業期間				15週（7.5週）					
							1時限の授業の標準時間				90分					

教 育 課 程 等 の 概 要																
情報科学研究科応用情報科学専攻（専門職）																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹（助手を除く教員）
基盤科目	応用情報科学特論	1前	/	2			○			7	2				オムニバス・共同（一部）・メディア	
	専門職としての研究方法とコミュニケーション	1①	/	2			○			1					※演習・メディア	
	応用プログラミング演習	1①	/	2				○		1	1				共同・メディア	
	技術者倫理特論	1②	/	2			○			4					※演習・オムニバス・共同（一部）・メディア	
	統計学応用特論	1②	/	2			○			1					※演習・メディア	
	小計（5科目）	-	-	-	10	0	0	-	-	7	2	0	0	0	0	-
専門科目	組織活動の経済・評価特論	1①	/		2		○								兼1 ※演習・メディア	
	ソフトウェア工学特論	1②	/		2		○			1					※演習・メディア	
	データサイエンス特論	1③	/		2		○			1					※演習・メディア	
	UX・UI特論	1③	/		2		○								兼1 ※演習・メディア	
	アルゴリズム特論	1③	/		2		○				1				※演習・メディア	
	最適化特論	1③	/		2		○			1					※演習・メディア	
	情報システムの開発と評価特論	1③	/		2		○			1					※演習・メディア	
	金融工学特論	1③	/		2		○			1					※演習・メディア	
	データベース特論	1④	/		2		○			1					※演習・メディア	
	AI・機械学習特論	1④	/		2		○			1					※演習・メディア	
	生成AI活用特論	1④	/		2		○			1					※演習・メディア	
	シミュレーション特論	1④	/		2		○			1					※演習・メディア	
	アプリケーション開発特論	1④	/		2		○								兼1 ※演習・メディア	
	組込みシステム・IoT特論	1④	/		2		○								兼1 ※演習・メディア	
小計（14科目）	-	-	-	0	28	0	-	-	7	1	0	0	0	兼4	-	
展開科目	ビジネスデータサイエンス特演	2①	/		2			○		1					メディア	
	システム開発特演	2①	/		2			○		1					メディア	
	AI活用特演	2②	/		2			○		1					メディア	
	アプリケーション開発特演	2②	/		2			○			1				メディア	
	地方創生DX特演	2③	/		2			○		1	1				共同・メディア	
	小計（5科目）	-	-	-	0	10	0	-	-	4	2	0	0	0	0	-
課題研究	課題研究1	1前	/	2				○		7	2				メディア	
	課題研究2	1後	/	2				○		7	2				メディア	
	特定課題研究1	2前	/	4				○		7	2				メディア	
	特定課題研究2	2後	/	4				○		7	2				メディア	
	小計（4科目）	-	-	-	12	0	0	-	-	7	2	0	0	0	0	-
合計（28科目）		-	-	-	22	38	0	-	-	7	2	0	0	0	兼4	-
学位又は称号	情報科学修士（専門職）			学位又は学科の分野				工学関係								
卒業・修了要件及び履修方法								授業期間等								
情報科学研究科応用情報科学専攻（専門職）の修了要件は、基盤科目10単位、専門科目8単位、展開科目4単位、課題研究12単位を含み、合計40単位以上を修得すること。								1学年の学期区分				2期（4クォーター）				
								1学期の授業期間				15週（7.5週）				
								1時限の授業の標準時間				90分				

授 業 科 目 の 概 要					
情報科学研究科応用情報科学専攻(専門職)					
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考	
基盤科目	応用情報科学特論		<p>現代社会はあらゆる面で情報科学技術が使われているが、日々進歩する情報科学技術を適切に理解し活用できる専門職人材としての確実なる基礎的理解とその社会における活用を修得することは必須である。本科目では、コンピュータのアーキテクチャ、さまざまな情報システムの構成、情報科学技術が活用される諸サービスを確認しつつ、ケース・スタディやディスカッションを通して、近年の情報システム・情報サービスの動向を把握し、応用情報科学としての基盤を身に付けることを目的とする。</p> <p>(オムニバス/全15回) (1 野村典文/1回) 各種データベースの設計と処理技法に関して学習すると同時に、現行のシステムの課題や運用方法を把握し、最新技術が業務効率化や生産性向上にどのように貢献するかを学習する。</p> <p>(2 橋本喜代太/2回) 現代社会は使用されている情報科学技術を俯瞰的に眺め、人工知能(AI)、機械学習についての実践的知識・スキルの重要性を、ケース・スタディやディスカッションを通して学習する。</p> <p>(3 矢島安敏/1回) ビジネスデータサイエンスに焦点をあて、ケース・スタディを通してデータサイエンスの意義を学習する。</p> <p>(4 小柳淳二/2回) 実世界の問題を数学的構造で表し、線形計画法などを使って問題を解くことで、実課題の解決に役立てることをケース・スタディを通して学習する。</p> <p>(5 田中輝明/2回) 情報システムの構成要素について、ケース・スタディやディスカッションを通して学習する。</p> <p>(6 中山季之/1回) データ分析の基礎を復習し、金融工学の事例をもとに統計分析の応用について学習する。</p> <p>(7 矢敷達朗/1回) さまざまなシミュレーションの事例を用いながら、微分方程式とその数値解法の必要性を学習する。</p> <p>(8 高藤大介/2回) コンピュータがプログラムを効率的かつ円滑に実行する仕組みを、互いの関係性に中心に学習する。</p> <p>(9 大島和裕/1回) 最新の情報科学技術であるAIやビッグデータなどの活用が環境や人に与える影響を、ケース・スタディを通して学習する。</p> <p>(1 野村典文、2 橋本喜代太、3 矢島安敏、4 小柳淳二、5 田中輝明、6 中山季之、7 矢敷達朗、8 高藤大介、9 大島和裕/1回) これまでに学んだ内容をもとに、ディスカッションを通じて情報科学技術の多様な応用分野や社会への影響、および技術革新による将来の発展の可能性について学習する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)	
	専門職としての研究方法とコミュニケーション			<p>応用情報科学の分野では、実際の課題解決において最先端の情報科学技術を理解し活用する思考力を身に付けておく必要があるが、かつ、課題に関与する多様な背景を持つ人との適切なコミュニケーション能力も欠かせない。本科目では、課題解決に必要なクリティカルシンキング、研究開発方法を学び、課題を整理し解決に導く思考法と、その過程や成果を多様な背景を持つ人々に伝え、議論するために必要なコミュニケーション力、特にテクニカルライティング、テクニカルプレゼンテーション、多様性の配慮を身に付けることを目的とする。</p>	講義16時間 演習14時間
	応用プログラミング演習			<p>情報科学技術の活用に当たっては一定のプログラミングに対する理解が欠かせないのは論をまたない。データサイエンス、情報エンジニアリングいずれを学修していく上でも、その実装にはプログラミングが必要であり、情報系高度専門職としてその理解と実践は不可欠である。本科目では、基本的なプログラミングは修得済みであることを前提に、プログラミングの要諦を確認しつつ、現実的な課題をプログラムとして実装する演習を通して、プログラミングの理解をさらに深めるとともに、のちの学修や職務でプログラミングを実践できる能力を高めることを目的とする。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基盤科目	技術者倫理特論		<p>情報科学技術は多様なデータを扱う等のために、実際の研究・開発・実装に当たっても、倫理的、モラル上のさまざまな配慮が必要である。本科目では、基本的な研究倫理、環境倫理、モラル、コンプライアンス及び監査と同時に、関連諸法令も含めた個人情報保護、知的財産保護についての確実な理解を醸成し、適切なリスクマネジメントを持ちつつ、高度専門職としての応用情報科学分野の高度技術者として適切な業務遂行ができることを目的とする。</p> <p>(オムニバス/全15回) (2 橋本喜代太/4回) 適切な研究倫理、データの適正利用、AIの倫理的課題などを理解し、情報技術の責任ある利活用について学習する。</p> <p>(1 野村典文、7 矢敷達朗/4回) 個人情報や知的財産の保護について最近の事例をもとに適切な運用について学習し、技術者倫理等に関する諸法令を、ケース・スタディとディスカッションを通して理解を深める。</p> <p>(3 矢島安敏/4回) リスクマネジメントの基礎について学習すると同時に、ケース・スタディとディスカッションを通して制度設計と運用方法について学習する。</p> <p>(1 野村典文、2 橋本喜代太、3 矢島安敏、7 矢敷達朗/3回) 情報系における高度専門職としての責任や社会的影響を踏まえた技術者倫理のあり方を、ケース・スタディとディスカッションを通して学習する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)  講義16時間 演習14時間
	統計学応用特論		<p>統計学はデータサイエンスの基本領域の一つであり、どのようなデータを分析する上でも欠かせない。本科目では、記述統計学は修得済みであることを前提に、推測統計学、多変量解析、ベイズ統計についての理解を深め、現実の統計分析やデータサイエンスにおいて、それらを用いつつ、マーケティング、金融など、さまざまなドメイン(領域)のデータの特徴と分析目的に合わせて応用することができることを目的とする。</p>	講義16時間 演習14時間
専門科目	組織活動の経済・評価特論		<p>企業をはじめとして組織の活動、ひいては地域の活動は、経済活動と捉えることができ、そのありようについての適切な理解と評価はきわめて重要である。本科目は、多様な組織のありようを踏まえて、その組織活動を財務分析・管理会計の諸手法を用いて分析・評価することを学ぶことで、情報科学技術の活用等が最終的に資することを期待される組織活動の経済的向上を検討しながら応用情報科学の諸分野での課題解決ができることを目的とする。</p>	講義16時間 演習14時間
	ソフトウェア工学特論		<p>現代の大規模なシステムやアプリケーションを多数のチームで適切に開発するためには、ソフトウェア工学の深い理解が欠かせない。本科目では、基礎的なソフトウェア工学について修得済みであることを前提に、特に上流工程から下流工程への健全かつ円滑な接続を念頭に、システムライフサイクルを意識して開発を行う開発手法を身に付けるため、要求分析、要求定義、デザインパターン、UML等についてさらに理解を深め、開発の検証、保守も含め、ソフトウェアの開発・維持に必要なマネジメントをよりよくできるようになることを目的とする。</p>	講義16時間 演習14時間
	データサイエンス特論		<p>情報科学技術はデータの分析・活用に基づくものであり、多様なビッグデータを的確に扱い、DX等を実現するためにもデータサイエンスの知見・技術が必要となる。本科目では、基本的なデータの扱い・分析の経験を前提として、その発展のために必要な基盤としてのさまざまな統計手法や基本的な機械学習技術を身に付け、実際のデータ分析で必要となるデータエンジニアリングの諸技法を含め、データのライフサイクル全体を視野に入れたデータサイエンスの実践ができるようになることを目的とする。</p>	講義15時間 演習15時間
	UX・UI特論		<p>近年の情報科学技術は自動制御なども含め、サービスの利用者(顧客)、提供者双方で適切で誤解や事故を誘発しないユーザインタフェース(UI)、ストレスを感じずにニーズを満たせる高いユーザエクスペリエンス(UX)の実現が求められる。本科目では、人間中心のデザインをもとにUI、UXをいかに高めるかについて、心理学的側面を踏まえつつ、その設計とユーザビリティ評価に必要な知識と技術をケース・スタディやPBLを通して身に付けることを目的とする。</p>	講義16時間 演習14時間
	アルゴリズム特論		<p>近年の高度かつ複雑なシステムの開発には、効率的なアルゴリズムの設計とその評価法、さまざまなプログラミング技法を身に付けている必要がある。本科目では、基礎的なプログラミング技法は修得済みであることを前提として、効率的なアルゴリズムとデータ構造の応用を学習すると同時に、計算量解析による評価手法を身に付け、大規模なシステム開発に有効なオブジェクト指向プログラミングを習得し、理論に裏付けられた高度なプログラミング能力の習得を目的とする。</p>	講義16時間 演習14時間

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	最適化特論		工場の機器配置や配送も含め、社会や企業等における情報科学技術の活用の上で、最適化技術に基づくものは多い。本科目では、この最適化について、さまざまな適用分野を念頭に、数理最適化、組合せ最適化、線形計画法、オペレーションズ・リサーチなどを網羅的に学んだうえで、現実の多要因の考慮が必要となる最適化を行うために必要となる課題の分析や最適化技術を用いた解決をケース・スタディやPBLを通して身に付けることを目的とする。	講義16時間 演習14時間
	情報システムの開発と評価特論		現代の情報システムは多様かつ複雑化しており、多人数のチームでの開発が前提であり、その実施に当たっては設計・開発・評価の各面において、システムティックな運用が必要となる。本科目では、情報システムの開発と評価について、PMBOK 7に基づきつつ、チーム開発の要諦、プロジェクトやコードの適切な管理、効果的かつ効率的なシステムやデータのアーキテクチャの設計と実装、テストを含めた適切な評価に必要な設計と実施等の理解を深め、情報システムの開発の諸段階でリーダーとして活躍する力を持つことを目的とする。	講義16時間 演習14時間
	金融工学特論		金融取引や金融市場は現在、ますます複雑化しており、その基盤たる金融工学を理解することは金融分野の職務に就く者にもちろんのこと、金融に関わるデータ分析やシステムに携われる者にとっても必須である。本科目では、この金融工学について、オプションも含めた金融商品の資産価値の決定と投資に関する理論等、ファイナンスの基本原則、リスクヘッジとそのマネジメント等、金融工学の主要な点について、演習等を含めて学ぶことにより、金融工学の知見を活かしたデータ分析やシステム開発・運用ができることを目的とする。	講義16時間 演習14時間
	データベース特論		情報システムはもとより、データ分析、Webやクラウド上のアプリケーションなどではデータをどのように蓄積・共有・管理するかはきわめて重要である。本科目では、データベースについての理解をより深めるために、RDB及び諸種のデータベースについて、その設計と処理技法について理解を深めるとともに、クラウド等の分散データベースにおけるデータ蓄積・処理技法などを学ぶことにより、データベース全般の開発・運用能力を高めることを目的とする。	講義12時間 演習18時間
	AI・機械学習特論		多様なビッグデータをもとにDX等に資するデータ分析、データモデリングを行なうには、人工知能(AI)、機械学習についての実践的知識・スキルが欠かせない。本科目では多様なデータを扱って課題解決を行なうために必要な人工知能技術、特に深層学習も含めた教師付き学習、教師なし学習、強化学習など機械学習の技術をその評価手法も含めて身に付けることを目的とする。	講義16時間 演習14時間
	生成AI活用特論		急速に発展・普及が進みつつある大規模学習を元に新たなコンテンツを生み出す生成AIは今後のビジネス変革に大きく関わる。本科目では、生成AIについて、応用情報科学分野の専門職人材として必要となる大規模言語モデル、大規模マルチメディア生成モデルとファインチューニングやRAG等を用いたそのドメイン対応のために必要な技術を学ぶとともに、生成AI技術の実際的な活用をそのリスク対処も含めてケース・スタディ等を通して議論することで、今後の発展に対処しつつ生成AIを活用できるようになることを目的とする。	講義16時間 演習14時間
	シミュレーション特論		応用情報科学の諸分野はその実装により組織や地域の活動に資すると同時に、情報サービス、機器類などの設計や諸予測の基礎となる推計におけるシミュレーションにも使われる。本科目では、さまざまなシミュレーションとその基礎となる微分方程式とその数値解法について理解し、ケース・スタディ等によりその現実的な実装や効果を学ぶことを通して、諸問題の解決において必要なシミュレーションを設計・活用できるようになることを目的とする。	講義16時間 演習14時間
	アプリケーション開発特論		現代のアプリケーションはスタンドアロンにとどまらず、アプリケーション間の接続がより用いられるとともに、Webアプリケーションやクラウドベースのアプリケーションも普及している。本科目では、特定の用途を満たすアプリケーション、特にWebやクラウドを前提としたアプリケーションの開発を効果的に行なうために、その設計、UIやUXの考慮を踏まえつつ、現代的なアプリケーション開発に必要なセッションやイベントの管理なども含めた諸技術を身に付けることを目的とする。	講義16時間 演習14時間
	組込みシステム・IoT特論		現代のデータ分析や機器制御では、さまざまなセンサーから逐次得られるデータを基にしており、そのデータの取得・共有・活用に当たっては組込みシステムやモノのインターネット(IoT)の活用が欠かせない。本科目では、さまざまな分野で活用される組込みシステムについて、そのOS、ハードウェア制御、センサー技術の理解を深めるとともに、そこで用いられるデータの送受信や管理、異なるデバイスから収集されるデータの管理や活用としてのIoTを着実に理解し、ケース・スタディ等でベストプラクティスを学びつつ、組込みシステムやIoTを設計・実装・活用できるようになることを目的とする。	講義16時間 演習14時間

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
展開科目	ビジネスデータサイエンス特演		本科目では、ビジネス分野を主な対象として、実データもしくはそれに近いデータを用いてデータサイエンスの諸技術を活用した分析を困難点などのポイントに焦点を併せつつ検討や分析の実施を試みることを通じて、ビジネスデータサイエンスの実践的能力を育成・向上することを目的とする。具体的には、授業回数ごとに一つのテーマを教員が提示し、各自またはチームでそのテーマに従った具体的な課題を設定してPBL形式で演習を行なうが、広く受講者間で議論・結果報告を行い、それに基づくディスカッションを行うことを通じて、より実践的なデータサイエンス力を身に付ける。	
	システム開発特演		本科目では、実環境と同じまたはそれに類したレベルで求められる情報システムの開発について、失敗しやすい点などに焦点を併せつつ設計や開発プロセスの検討を行うことを通じて、システム開発の実践的能力を育成・向上することを目的とする。具体的には、授業回数ごとに一つのテーマを教員が提示し、各自またはチームでそのテーマに従った具体的な課題を設定してPBL形式で演習を行なうが、広く受講者間で議論・結果報告を行い、それに基づくディスカッションを行うことを通じて、より実践的なシステム開発力を身に付ける。	
	AI活用特演		本科目では、AIを活用したシステムやサービスの開発によって社会や組織のニーズを満たす上での諸問題に焦点を併せつつ分析や設計の検討を試みることを通じて、AI活用についての実践的能力を育成・向上することを目的とする。具体的には、授業回数ごとに一つのテーマを教員が提示し、各自またはチームでそのテーマに従った具体的な課題を設定してPBL形式で演習を行なうが、広く受講者間で議論・結果報告を行い、それに基づくディスカッションを行うことを通じて、より実践的なシステム構築等におけるAI・機械学習活用技術を身に付ける。	
	アプリケーション開発特演		本科目では、中規模から小規模のアプリ単体の設計と実装のための演習を行い、モバイルアプリやWebアプリなどのアプリ開発に対する実践的で応用力のある開発能力を身に付けることを目的とする。具体的には、主として授業2-4回ごとに一つのテーマや課題を教員が提示し、さまざまな方法で情報収集を行いながら、各自がテーマに沿ったアプリや課題解決のアプリを実装し、その後受講者間で成果報告とディスカッションを行う。このようにアプリの実装から公開までの一連のプロセスを繰り返し実践することで、プログラミングやシステムに対する理解を深め、社会に役立つ総合力を身に付ける。	
	地方創生DX特演		本科目では、地方創生をDXで実現・支援するという観点から、地域の課題やニーズを発見し、それをDXで解決することについて、さまざまなボトルネックに焦点を合わせつつ、各課題の解決を試みることを通じて、地方創生DXの実践的能力を育成・向上することを目的とする。また、その際、環境に対する配慮も含め、GXという観点も重視する。具体的には、授業期間に渡って1つの課題を各自またはチームで設定してPBL形式で演習を行なうが、広く受講者間で議論・結果報告を行い、それに基づくディスカッションを行うことを通じて、より実践的な地方創生DXにかかる課題解決力を身に付ける。	共同
課題研究	課題研究1		<p>(概要)</p> <p>本科目では受講者一人またはチームで、組織の比較的小さな課題を設定し、解決に向けて課題をどう分析するか、解決を現実的な制約の中でどのように導き出していくか、そのためにどのような技術がどう必要となるかを検討・整理していくことで、組織の具体的な課題に対して応用情報科学の諸分野の知見や技術をどう活用するのかを実践的に学び、その基礎的問題解決法・技術を身に付けることを目的とする。</p> <p>(1 野村典文) 情報システムの開発、データベース等に関わる諸課題について、上記の目的で、研究指導を行う。</p> <p>(2 橋本喜代太) AI・機械学習及びデータサイエンスの理論と応用に関わる諸課題について、上記の目的で、研究指導を行う。</p> <p>(3 矢島安敏) データサイエンスの技法及び活用に関わる諸課題について、上記の目的で、研究指導を行う。</p> <p>(4 小柳淳二) 数理計画法、最適化の理論と応用に関わる諸課題について、上記の目的で、研究指導を行う。</p> <p>(5 田中輝明) 情報システム、組込システム等に関わる諸課題について、上記の目的で、研究指導を行う。</p> <p>(6 中山季之) 統計学の応用、金融工学に関わる諸課題について、上記の目的で、研究指導を行う。</p> <p>(7 矢敷達朗) シミュレーションの理論と応用に関わる諸課題について、上記の目的で、研究指導を行う。</p> <p>(8 高藤大介) プログラミング、アルゴリズムの理論と実践に関わる諸課題について、上記の目的で、研究指導を行う。</p> <p>(9 大島和裕) 気象や環境の要因を加味したデータサイエンスの理論と応用に関わる諸課題について、上記の目的で、研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題研究	課題研究2		<p>(概要)            本科目では受講者一人またはチームで比較的小さな組織の課題を設定し、情報科学技術を活用した解決するシステムや分析を、プロトタイプとしての実装を試みる。その際、課題研究1で学んだことに加えて、それを実際に実装していくプロセスをさらに実践的・現実的なものに改善し、組織の具体的な課題に対して応用情報科学の知見や技術の具体的な活用法及びその際に生じる問題や制約にどのように対処していくかを学び、真に実践的な問題解決法・技術を身に付けることを目的とする。</p> <p>(1 野村典文)            情報システムの開発、データベース等に関わる諸課題について、上記の目的で、研究指導を行う。            (2 橋本喜代太)            AI・機械学習及びデータサイエンスの理論と応用に関わる諸課題について、上記の目的で、研究指導を行う。            (3 矢島安敏)            データサイエンスの技法及び活用に關わる諸課題について、上記の目的で、研究指導を行う。            (4 小柳淳二)            数理計画法、最適化の理論と応用に関わる諸課題について、上記の目的で、研究指導を行う。            (5 田中輝明)            情報システム、組込システム等に関わる諸課題について、上記の目的で、研究指導を行う。            (6 中山季之)            統計学の応用、金融工学に関わる諸課題について、上記の目的で、研究指導を行う。            (7 矢敷達朗)            シミュレーションの理論と応用に関わる諸課題について、上記の目的で、研究指導を行う。            (8 高藤大介)            プログラミング、アルゴリズムの理論と実践に関わる諸課題について、上記の目的で、研究指導を行う。            (9 大島和裕)            気象や環境の要因を加味したデータサイエンスの理論と応用に関わる諸課題について、上記の目的で、研究指導を行う。</p>	
課題研究	特定課題研究1		<p>(概要)            本科目では受講者各自が組織で発生する現実的な課題を取り上げ、情報科学技術を活用してそれを現実的に解決するための課題整理や設計を行うことを通して、課題研究1、課題研究2などで身に付けた問題解決法・知識・技術を現実的な課題の解決に結びつけることを学び、また、これまで学んだ情報科学技術の実際的な応用に具体化する知識・技術を身に付けながら、特定課題の解決の中心的なポイントの解決に結びつけていくことを目的とする。</p> <p>(1 野村典文)            情報システムの開発、データベース等に関わる諸課題について、上記の目的で、研究指導を行う。            (2 橋本喜代太)            AI・機械学習及びデータサイエンスの理論と応用に関わる諸課題について、上記の目的で、研究指導を行う。            (3 矢島安敏)            データサイエンスの技法及び活用に關わる諸課題について、上記の目的で、研究指導を行う。            (4 小柳淳二)            数理計画法、最適化の理論と応用に関わる諸課題について、上記の目的で、研究指導を行う。            (5 田中輝明)            情報システム、組込システム等に関わる諸課題について、上記の目的で、研究指導を行う。            (6 中山季之)            統計学の応用、金融工学に関わる諸課題について、上記の目的で、研究指導を行う。            (7 矢敷達朗)            シミュレーションの理論と応用に関わる諸課題について、上記の目的で、研究指導を行う。            (8 高藤大介)            プログラミング、アルゴリズムの理論と実践に関わる諸課題について、上記の目的で、研究指導を行う。            (9 大島和裕)            気象や環境の要因を加味したデータサイエンスの理論と応用に関わる諸課題について、上記の目的で、研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題研究	特定課題研究2		<p>(概要)</p> <p>本科目では特定課題研究1を受けて、各自の設定した組織の現実的な課題に対して、情報科学技術を応用した解決策をプロトタイプもしくは完成品の実装または総合的な分析結果として完成させるとともに、その内容と関連知識・技術を体系的、網羅的にまとめた特定課題報告論文を執筆・提出することを通して、本専攻で学んだ知識や技術を現実に適用する実践力を身に付けることを目的とする。特定課題報告論文は指導教員を含む審査委員会で審査され、その合格を本科目の成績評価の主とする。</p> <p>(1 野村典文) 情報システムの開発、データベース等に関わる諸課題について、上記の目的で、研究指導を行う。</p> <p>(2 橋本喜代太) AI・機械学習及びデータサイエンスの理論と応用に関わる諸課題について、上記の目的で、研究指導を行う。</p> <p>(3 矢島安敏) データサイエンスの技法及び活用に関わる諸課題について、上記の目的で、研究指導を行う。</p> <p>(4 小柳淳二) 数理計画法、最適化の理論と応用に関わる諸課題について、上記の目的で、研究指導を行う。</p> <p>(5 田中輝明) 情報システム、組込システム等に関わる諸課題について、上記の目的で、研究指導を行う。</p> <p>(6 中山季之) 統計学の応用、金融工学に関わる諸課題について、上記の目的で、研究指導を行う。</p> <p>(7 矢敷達朗) シミュレーションの理論と応用に関わる諸課題について、上記の目的で、研究指導を行う。</p> <p>(8 高藤大介) プログラミング、アルゴリズムの理論と実践に関わる諸課題について、上記の目的で、研究指導を行う。</p> <p>(9 大島和裕) 気象や環境の要因を加味したデータサイエンスの理論と応用に関わる諸課題について、上記の目的で、研究指導を行う。</p>	

## 公立大学法人周南公立大学 設置認可等に関する組織の移行表

令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和8年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
周南公立大学				周南公立大学				
経済経営学部				経済経営学部				
経済経営学科	160	—	640	経済経営学科	160	—	640	
人間健康科学部				人間健康科学部				
スポーツ健康科学科	80	—	320	スポーツ健康科学科	80	—	320	
看護学科	80	—	320	看護学科	80	—	320	
福祉学科	60	—	240	福祉学科	60	—	240	
情報科学部				情報科学部				
情報科学科	100	—	400	情報科学科	100	—	400	
計				計				
	480	—	1920		480	—	1920	
				周南公立大学大学院 <span style="float: right;">大学院新設</span>				
				情報科学研究科				
				応用情報科学専攻(P)				
				応用情報科学専攻(P)	15	—	30	
計				計				
					15	—	30	